

# 自主勉強会における 「研修参加人数減少」に関する要因分析 —参加者数の回復とより一層の研修充実を目指して—

執筆▶ 小林伸匡 居宅介護支援事業所つなぐ 管理者 主任介護支援専門員

学びの意欲は人それぞれ。しかし専門職として、日々の研鑽は必要不可欠ではないだろうか。広島市西区で居宅介護支援事業所の管理者をしている小林伸匡さんは研鑽の場への参加者が減少していることに危機感を感じ、その要因を調べた。見えてきたのは、ケアマネジャーの学びへのニーズの多様化だった。

## ケアマネの自己研鑽を支える

当勉強会は介護保険が施行された2000年から続いている自主勉強会です。運営は西区ケアマネジメント勉強会が行い、会員構成としては広島市西区に在る居宅介護支援事業所及び地域包括支援センターに所属するケアマネジャー（以下、ケアマネ）を対象としており、令和7年度の会員は176名を数えています。広島市西区におけるケアマネの人材状況ですが、喫緊の不足感は少ないものの、顔を合わせるのはいっつも同じ面々であるため、新たに入職するケアマネが非常に少ないこと、そして高齢化を切に感じております。

そのような中でも私達は、日々、刻々と変化する社会背景や制度等に円滑な対応が出来る様に、会員それぞれの自己研鑽のサポートならびに人材育成を目的に月1回の研修開催を続けています。その研修内容については、研修後に参加者からいただくアンケート結果をもとに

会員がタイムリーに興味を持たれているテーマを抽出し、役員が協議の上、年間研修計画を立案しております。

また、圏域におけるケアマネの連携を強化することにより強固なネットワークづくりを目指して、多くの事業所間での相互交流の場の提供も担っております。

立ち上げから運営にずっと携わって来られた諸先輩方の先駆者たる活動の成果として、県内他地域から充実した研修環境を羨む声を多々耳にする状況があり、現任の役員としてその維持を目的に取り組んでおります。

## コロナ禍がもたらした変化

研修開催に際して、100名近い参加が続いておりましたが、コロナ禍を経た現在においては50～70名に留まっている傾向があります（図①）。従来の会場開催中止を余儀なくされたコロナ禍においても、いち早くオンライン研修に着手し、学ぶ機会の提供を継続していま

したが、新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類感染症に移行したことをふまえて対面研修を再開しました。

現在にあっても参加者の回復に至っていません。その要因として、直接的な事由や背景があるのか、あるいは各会員に心境の変化がみられるのかなど検討する必要性を感じました。

## 研修への参加減少要因を探る 調査内容

研修への参加者数の減少に対して、不参加の理由の掘り起こしや学びの意欲の衰微の可能性、コロナ前後での心境の変化の有無等を検証することによって、参加者数の回復に繋げることを目的としました。

調査方法として以下の項目について、自主勉強会会員へのアンケートによる聞き取りを実施しました。

① 2024年度に開催した研修への参加回数